

月・考査等	単元名	指導内容	評価規準			評価方法	補助教材	指導上の改善点など	識	技	考	判	断	表
			知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】									
	学科名 商業科	学年 2年	教科 国語	科目 言語文化	単位数 2	教科書 新編 言語文化(数研出版)								
	科目の目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。												
4	地域の「ことば」 『とんかつ』	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようにすることができるようにする。	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。【(1)エ】	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。【B(1)ウ】	積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				○	◎	○	
5	古文に親しもう	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができるようにする。	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。【(2)ウ】	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに捉えている。【B(1)ア】	作品に表れる昔の人々の価値観や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				○	◎	○	
中間考査														
	古文の世界を楽しむ 『宇治拾遺物語』	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができるようにする。 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができるようにする。	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。【(2)ウ】	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。【B(1)イ】	積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。 『宇治拾遺物語』収録話と関連作品との違いを抽出し、学習課題に沿ってそれぞれの性格の違いをまとめようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				◎	○	○	
6	「ことば」を吟味する 『舟を編む』	我が国の言語文化に特徴的な文語の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができるようにする。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができるようにする。	我が国の言語文化に特徴的な文語の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)ウ】	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。【B(1)イ】	進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って考察しようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				○	◎	○	
期末考査 7														
	詩歌を味わう 短歌	我が国の言語文化に特徴的な文語の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができるようにする。	我が国の言語文化に特徴的な文語の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)ウ】	「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。【A(1)ア】	学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組みようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト レポート	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				◎	○	○	
8														
課題テ														
9	受け継がれる古典 『羅生門』	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようにすることができるようにする。	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。【(1)エ】	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。【B(1)イ】	積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				○	◎	○	
10	日本語の中に生きる漢文 訓読のきまり 格言	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができるようにする。	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。【(2)ア】	「読むこと」において、作品の見方、感じ方、考え方を捉え、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。【B(1)オ】	漢文に由来する学校名・会社名・人名などを調べて発表する課題において、積極的に自分の考えを説明しようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				◎	○	○	
中間考査														
	故事と成語	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができるようにする。	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。【(2)ア】	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。【B(1)エ】	故事成語の用例を調べて発表する課題において、粘り強く用例調査に取り組んでいる。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				◎	○	○	
11	語感を磨く 『側転と三夏』	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができるようにする。	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。【(1)ア】	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。【B(1)ア】	旧暦や古時刻、旧国名といった古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深めようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				○	◎	○	
期末考査 12														
12	和歌が作り出す世界	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができるようにする。	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。【(1)オ】	「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。【A(1)ア】	好きな和歌について積極的に調べ、学習課題に沿って紹介文を書くようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				○	◎	○	
1	「ことば」の力 『葉桜と魔笛』	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができるようにする。	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。【(1)エ】	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。【B(1)ア】	進んで作品展開を理解し、これまでの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				○	◎	○	
2	漢詩を味わう	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができるようにする。	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。【(2)ア】	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。【B(1)エ】	日本で書かれた漢詩を調べて発表する活動において、粘り強く課題に取り組んでいる。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				○	◎	○	
学年末考査														
3	先人を思う旅 『おくの細道』	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようにすることができるようにする。	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。【(2)ウ】	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。【B(1)イ】	本文中の句について粘り強く解釈したうえで、学習課題に沿って身近な文学記念碑について調査報告をしようとしている。	生徒観察 評価シート 確認テスト	新編言語文化準拠ワーク カラー版国語便覧				◎	○	○	